

2025 年度事業報告書

特定非営利活動法人 釜ヶ崎支援機構

I 事業期間

2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

II 事業の成果と課題

(1) 自立援助ホーム「SHotoku17」の開設

2025 年度は、若者支援を大きく前進させた年となりました。1 月には自立援助ホーム

「SHotoku17 (ショウトクセブンティーン)」を開設し、若者の生活の場を確保しました。3 月末には全 5 室が満室となり、地域の若者支援の受け皿として早くも機能し始めています。

自立援助ホームでは、食事は共有の部屋で調理しみんなで揃って食べます。また、部屋の掃除など、一人暮らしに移行する際に必要な生活力を身につけることができます。これにより、生活力の低さにより生活が破綻する若者に、段階的な居住支援を展開することが可能になりました。



(2) 若者支援の充実～ユースフリーカフェ「ヨル・ベース」の展開～



2024 年 6 月より始まったユースフリーカフェ「ヨル・ベース」は、2025 年度に延べ 755 名（1 回平均 7.7 人）が参加し、前年度（延べ 419 人）から大幅に拡大しました。「遊びと学びを応援」を軸に、ゲーム・手作りごはん・仕事体験・月 1 回のミーティングを実施し、若者が安心して集えるアジール（自由な居場所）として地域に根づいています。

居住支援（ヨリドコハウス・SHotoku17）とヨル・ベースが連携することで、住まい・居場所・自立という段階的な若者支援の体制が整いました。

(3) 就労支援エコシステムの構築～段階的な働く場の整備～

就労支援事業部では、内職センター・清掃講座・請負事業・職場体験という各支援メニューをひとつのエコシステム（支援の生態系）として機能させる体制を構築しました。また 2026 年 3 月には自転車リサイクル事業「ポタリン」を萩之茶屋へ移転し、相談窓口・内職センター・ポタリン実習が物理的に近接した一貫支援体制が完成しました。請負事業では延べ 2,488 名の雇用を創出し、内職センターの利用者数は前年比 2 倍へと急増しました。

（４）住まいとくらし SOS おおさか NPO 法人化申請

前回会報にてお伝えしていた「住まいとくらし SOS おおさか」の NPO 法人化準備が整い、現在申請中です。2026 年度には NPO 法人として始動する予定です。設立時の共同代表は高野太一（認定 NPO 法人ビッグイシュー日本）、牧憲一（萩之茶屋地域周辺まちづくり合同会社）、小林大悟（認定 NPO 法人釜ヶ崎支援機構）の 3 名体制となります。

（５）サービスハブ・ひと花プロジェクト合併 2 年目の新たな取り組み

女性限定プログラム「ろーじカフェ」は、少人数で安心して過ごせる場として、調理や会話を通じてゆるやかなつながりをつくることを目的に実施しました。

縫製プログラム「倶楽部ぬぬぬぬぬう!」では、ミシンを使ったものづくりを通じて、参加者同士の自然な交流が生まれる場となっています。

「自転車駄菓子屋サーカス」は、地域イベント等に出店し、月 1 回は山王こどもセンターへ出店しています。



「ヨリドコキッチン」が 2 周年を迎え、2025 年度は延べ 275 名が参加しました。

（６）釜ヶ崎の夏祭り・越冬闘争への参加

釜ヶ崎の夏祭り・越冬闘争に資材準備・設営・経理等で参加しました。越冬闘争については 2025 年 12 月 29 日から翌年 1 月 5 日早朝まで、地域に根差した活動を行いました。

Ⅲ 事業の実施状況

（１）就労機会提供事業

① あいりん地域高齢労働者就労自立支援事業

大阪府から「あいりん地域高齢労働者就労自立支援事業」を受託しました。

府下の施設・管理地（府立施設・府立高校・道路・河川等）で、除草・清掃・剪定等の作業を行いました。「西成労働福祉センター周辺交通安全警備業務」では、あいりん労働福祉センターに出入りする求人車両の誘導ならびに清掃作業を実施しました。

② あいりん日雇労働者等自立支援事業高齢日雇労働者社会的就労支援業務

大阪市から「あいりん日雇労働者等自立支援事業」内「高齢日雇労働者社会的就労支援事業」を受託しました。「あいりん地域内及びその周辺の環境美化に関する作業」では、道路清掃・側溝清掃・除草作業を実施しました。「あいりん地域外の環境美化に関する作業」では、市有地・道路・公園等での除草・剪定および清掃等、市立保育所でのペンキ塗り・剪定・修繕等の作業を実施しました。

2025年度は、輪番登録労働者数777人（最終登録後）を対象に事業を実施しました。府・市合わせて192人（休日明けは203人）の輪番登録労働者を当機構が日々雇入れ、就労機会を提供しました。

本事業は2025年度よりそれまでの複数年契約ではなく、単年契約としてスタートしました。



③ あいりん労働センター建物敷地内巡回業務

大阪労働局及び大阪府商工労働部より委託を受け、あいりん労働センターの維持管理のため建物敷地内巡回を4-5月の2か月間実施しました。

④ その他請負業務

民間企業等から幅広く除草・塗装・剪定等の作業を請け負って実施し、釜ヶ崎の日雇労働者やホームレス生活者の就業機会の確保に努めました。

（2） 相談・サポート事業

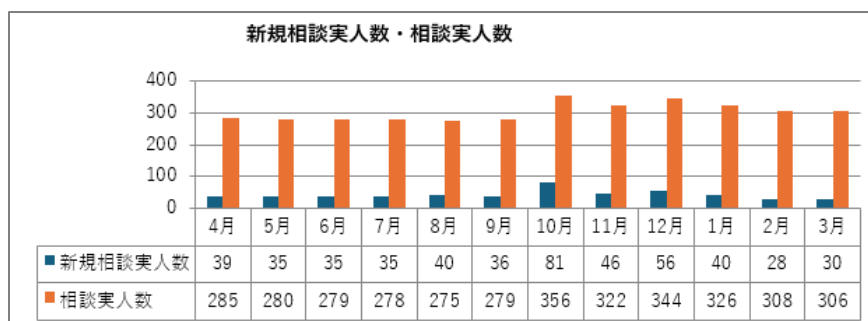
① 相談支援事業（相談支援事業部）

大阪市から「あいりん日雇労働者等自立支援事業」内「相談支援」を受託しました。あいりん地域の日雇労働者等に対し、特別清掃やあいりんシェルターと連携しつつ、健康相談や生活相談等を行いました。

2025年度相談実績：相談合計13,280件（前年度比1,820件増）、相談実人数3,642名、新規相談実人数617名。うち就労決定36名、生活保護決定49名。内訳：就労相談335件、生活保護相談938件、健康・保健支援934件、その他相談・各種支援11,073件。

支援を継続している利用者は約130名（金銭管理を含めた生活相談、依存症からの回復支援、病院同行、債務相談、行政関係の手続き等）。シェルター利用者の面談は100名前後（シェルター新規利用登録手続きとシェルター利用者面談 1人あたり月2回）。

近年のインバウンドの影響による宿泊費値上げなどにより、日雇い労働をしている50～60歳代のシェルター新規登録・利用が前年比110%となりました。また外国籍の相談者や80歳代の相談が前年比213%となるなど、高齢化や多様化した相談ニーズに対応しました。



② 大阪府済生会と協働した健康診断

2025年10月（3日間）に済生会健診を実施しました。総受診者数は363名（前年度比2名増）でした。健診結果はA判定137名、B判定143名、C判定83名でした。また結果返し（11月・3日間）にて採血結果の返却、社医C判定者の医療受診同行等を実施しました。

③ 相談支援事業部の食事支援（NHK 歳末助け合い助成事業）

外国人や若年～中高年女性の相談増加に対応し、滞在中の宿の提供と食事支援を実施しました。2025年度は物価上昇・米不足の影響でもち米が前年比160%、パックご飯が190%と大幅値上げとなりましたが、必要な方への食事支援を継続しました。

（3）居場所提供事業

① あいりん日雇労働者等自立支援事業居場所支援

夜間シェルターの運営（14：30～翌朝8：30）

大阪市から委託を受けて、あいりんシェルター管理運営業務を実施しました。開所日数は356日。のべ利用人数39,777人の方が利用しました。感染症対策としてベッド・トイレ・手すり・床・テーブル・椅子・ベンチ等の消毒と次亜塩素酸空気清浄機の使用、発熱者の検温等を継続しました。

昼の居場所棟の運営（6：00～20：45）

大阪市から委託を受けて、あいりんシェルター内昼の居場所棟（禁酒の館）にて、居場所・洗濯機・シャワー等の提供を行いました。



② あいりん日雇労働者等自立支援事業越年時支援

2025年12月29日から翌年1月5日早朝まで、あいりん地域に居住する単身日雇労働者であって、年末年始に仕事をもらえないため自ら食及び住を求めがたい方に対し、あいりんシェルターにて宿泊場所を提供するとともに食品・日用品等を支給しました。また地域の日雇労働者・生活困窮者からスタッフを採用し、就労機会を作りました。

（4）就労支援事業

① 就業支援事業（就労支援事業部・お仕事支援部）



大阪ホームレス就業支援センター運営協議会から委託を受けて、就労自立を目指す人への就職相談・就職支援事業を実施しました。求人情報の提供・求人企業への紹介、面接の受け方および履歴書作成の指導を行いました。

2025年度新規登録者：133名（平均年齢48歳）、相談実績：延べ1,261件（実人数253名）、常用就職実績：26名となりました。また、

請負事業では延べ2,488名の雇用を創出しました。

内職センターは地域内他団体からの受け入れを強化した結果、利用者数が前年比2倍へと急増しました。お仕事マッチ（合同就職面接会）は計2回開催（延べ25名参加）。あいりん地域不安定労働者就労支援事業を通じ、19名のプログラム利用者のうち14名が同じ職場で継続雇用されています。



大阪ホームレス支援センターからの要請に基づき、引き続きパソコン初心者向けの教室を開催しました。就労意欲を持てるよう支援することも重要な目的とし、教室を「居場所」として機能させ社会性の維持・回復を図りました。今年度は新たにAI活用にも取り組みました。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
受講者数	16名	17名	18名	18名	19名	20名	22名	22名	21名	15名	15名	15名
備考	開催回数：毎月4回開催（年間48回）のべ受講人数：218名											

② 就業開拓推進事業

大阪ホームレス就業支援センター運営協議会から委託を受けて、支援対象者に応じた個別の求人開拓、地域への貢献活動となる仕事の開拓、企業向けの広報宣伝活動を行いました。

③ あいりん地域不安定労働者就労支援事業

就労経験や職業スキルの不足等により不安定な就労状況に置かれているあいりん地域労働者（55歳未満対象）等に対し、「中間的就労」の場を提供する協力事業所と連携し、自立支援の準備を行いました。

（5）地域活性化事業（西成版サービスハブ構築・運営事業）

2019年度より大阪市西成区の委託事業として生まれた事業です。西成区で生活保護を受給している15歳以上を対象とし、就労支援や生活支援、社会的つながりづくりを実施しています。2024年度より「ひと花プロジェクト」と合併し、ヨリドコ西成連合体（サポーターハウス連絡協議会、こえとことばとこころの部屋、まちづくり今宮、山王訪問看護ステーション、釜ヶ崎支援機構）が運営を行っています。

2025年度の利用者数は66名、平均年齢は43歳と若年層の利用者が多いことが特徴的です。65歳以上の利用登録者数は34名でした。

支援実施件数（延件数）

居場所：5,758人（延人数）

就労体験実績：720件（延件数）

就労実績：15人

ボランティア活動：728人（延人数）

プログラム参加：1,951人（延人数）

住基設定、身分証発行、携帯電話契約：10人

障がい者手帳取得支援：11人

金銭管理支援：14人



農作業プログラム



清掃ボランティア



こども支援団体との
共同プログラム



リラクゼーション
プログラム

（6） 地域移行支援事業

大阪市の委託事業として2024年度に開始した「ホームレス地域移行支援事業」の2年目となります。大阪市内の都市公園・河川・道路・駅舎その他の施設で起居を余儀なくされている方を対象に、家賃・光熱費無料の家具家電付きワンルームアパートへ入居していただき、生活支援や就労支援を実施し、安定した住居への移行を支援しています。地域移行後も概ね1年間の見守り支援を行います。

2025年度利用者数：64名（新規利用者35名）

新規利用者の年齢内訳：20代2名・30代3名・40代7名・50代12名・60代8名・70代3名

2025年度は事業の認知度が上がり、利用中・以前利用した方が周知してくれたことが背景にあります。住居確保に支援が必要な方が多数利用されました。

（7） 自立援助ホーム「SHotoku17」



2024年末のクラウドファンディング（支援金確保）を経て、2025年1月に自立援助ホーム「SHotoku17」を開設しました。義務教育終了後の15歳から20歳まで（状況によっては22歳まで）の子どもたちが生活する場所です。定員は5名（5室）で男子専用ホームとなっています。各部屋に風呂・トイレ・台所が備わったワンルームアパートのため、入居者が一人暮らしに必要な生活力を身につけることができます。

2025年度末時点での入居状況：中学3年生2名・高校2年生1名・高校3年生2名（うち1名は高校未入学）。他事業部との連携により就労支援や段階的居住支援（ヨリドコハウス→ワンルーム住居）も提供しています。

(8) ヨリドコオンライン（ヨリドコオンライン相談支援）

ホームレス状態や生活に困りごとを抱えた人へ情報を届けること、オンラインを通じた相談支援を行うことを目的とした取り組みです。YouTube 動画やブログ記事での情報発信、LINE 相談を実施しています。

- ・2024 年度 LINE 相談件数：121 件 2025 年度 LINE 相談件数：89 件

相談者の所在地は大阪市内が最も多い一方、大阪府外からの相談も一定数あり、インターネットや YouTube 動画を通じて広域から相談につながっています。いずれの年度も「住まいがない」に関する相談が最も多く、住まい・生活・制度利用に関する幅広い困りごとが寄せられています。

(9) ユースフリーカフェ「ヨル・ベース」



2024 年 6 月 27 日より開始した若者向けの居場所事業です。「遊びと学びを応援」を活動の中心に置き、TV ゲームや麻雀・ボードゲームなどを通じた遊びチャージと、手作りごはん（無料夕食提供）、仕事体験、月 1 回のミーティングを実施しています。

- ・2024 年度：1 回平均利用者数 6.7 人、延べ 419 名参加（2024 年 6 月 27 日～）
- ・2025 年度：1 回平均利用者数 7.7 人、延べ 755 名参加

釜ヶ崎夏祭りでのイカバーガー、新今宮ワンダーランドでのから揚げ屋台への出店など、仕事体験の機会も提供しました。自立援助ホーム「SHotoku17」や居住支援の若者たちとの交流も始まっています。2025 年度はフィランソロピック財団ソーシャル・グッド基金の助成を受け活動しました。

(10) 住まいとくらし SOS おおさか

① NPO 法人申請

継続的な運営を目指し NPO 法人化の準備が整い、現在申請中です。法人化後は助成金や寄付募集等により活動に必要な資源を集めながら、既存の活動を改善しつつ新しい取り組みも行なっていく予定です。

② 食料配布&相談会（第 14・15 回）



三角公園（萩之茶屋南公園）で食料配布＆相談会を2回開催しました。毎回長蛇の列ができ500名分の食料が全てなくなります。住まいがない緊急性の高い相談件数は年々減少傾向にある一方、福祉や医療に既に繋がっているが本人が望まないケアや治療を断れずに行われているケースが増加しています。

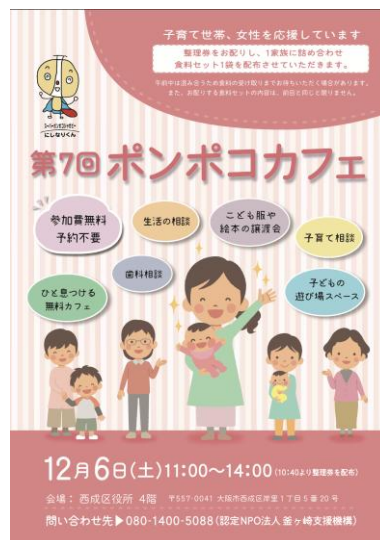
③ ポンポコカフェ（第6・7回）

西成区社会福祉協議会の協力を得て、西成区役所（4階）で2回開催しました。子育て世帯・女性を対象とした日用品配布・相談会で、2025年度は外国籍（ベトナム・中国）の参加者も増加しました。

（11） その他の事業

① 「ビッグイシュー」販売支援事業

ビッグイシュー本社より遠い大阪南部での販売者の利便をはかるため、仕入れ中継点としての役割を果たすとともに、さまざまな相談に応じました。



② 炊き出しによる食事の支援

越冬闘争実行委員会、釜ヶ崎就労・生活保障制度実現をめざす連絡会（反失業連絡会）と協働し、炊き出しによる食事支援を行いました。

（12） 社員総会の開催状況

第26回社員総会

日時 2025年6月28日（土） 午後5時40分～6時10分

場所 釜ヶ崎支援機構 南分室2階

会員20名中16名（内委任状10名）が参加して第26回社員総会を開催しました。事業報告・会計報告・事業計画・予算等を審議し、採択しました。

（13） 理事会の開催状況

今年度理事会は1回開催され、当法人の活動の大方針について論議し決定しました。

●第38回理事会

日時 2025年6月28日（土） 午後4時30分～5時30分 場所 釜ヶ崎支援機構 南分室2階